

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592200028		
法人名	社会福祉法人高千穂天寿会		
事業所名	グループホーム寿久の里		
所在地	宮崎県西臼杵郡日之影町大字七折1850-1		
自己評価作成日	平成27年11月25日	評価結果市町村受理日	平成28年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanistrue&jisyosyoCd=4592200028-00&PrefCd=45&Version=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>本人の出来る事を引き出し、今以上の自立に向けた支援を行う。</p>
<p>【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】</p> <p>特別養護老人ホーム等を複数運営する法人を母体としており、異動により経験豊富な職員の配置がなされ、管理者を中心とした良いチームワークにより、質の高いケアの維持につなげている。特に個別ケアに重点を置き、利用者一人ひとりと向き合う時間を増やし、その中から利用者の良いところ(できるところ)に視点を向けるなど、自立に向けた支援を行っている。また、併設された養護老人ホームを会場とし、毎週地域住民を交えて行う「茶飲み場」にも全利用者が参加し、地域とのつながりやなじみの人との関係継続の支援を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者が、いつも笑顔で、より家庭的な生活がおくれるよう」報告・相談を行い、計画を立て、チームワークを大事に業務にあたる事が出来るよう、常にミーティングを行っている。	全職員で話し合い、現状にあった理念を決め、その理念を念頭に置き支援している。また、チームワークが重要であることを踏まえ、その意義を共有し、意思の疎通を図りながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、地区の方が慰問に来られ、お茶のみを一緒にされたりする。また、社協主催で行っている「茶飲み場」にも時々参加させてもらっている。	地域の行事へ積極的に参加し、近隣の訪問や差し入れなどを通して交流を図っている。また、併設施設で行われる「茶飲み場」に参加し、地域とのつながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、上記内容しか実績がなく、今後検討すべきであると考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の中で、新規の入居者の在宅時の状況や家族関係等の情報をいただいている。その中で生活歴等を知ることが出来る情報が多い。	行政職員や地域住民、家族代表等の参加があり、現在の状況や今後の注意点なども積極的に公開し、意見をもらうよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員がよく訪問して下さる為、相談事や現状報告を行っている。また、地域ケア会議にも出席し、現状報告を行い、協力を頂いている。	必要に応じ、互いに情報交換や相談、現状報告を行っている。また、地域包括支援センターの職員が訪問した時やケア会議等で現状報告を行い、意見をもらうなど、協力体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全員理解している。現在身体拘束は「0」である。玄関の施錠に関しては、不穩者がいる時等はやむを得ず施錠するが、基本的には行わず、センサーにて対応を行っている。	山間部という立地環境から、重大事故につながらないようやむを得ず玄関に施錠することがあったが、職員一人ひとりが研究会を通し、身体拘束の弊害等について理解を深め、拘束ゼロを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行った職員が、全体会の場で自分の思い等も含め伝達し、共有している。ニュース等に流れた際には、ミーティングにて話題にし、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会も少なく難しい問題であるが、成年後見制度に関しては、入居者の方で対象の方がおられる為、その都度家族等に話を聞き学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約の説明を行い、納得を頂いている。また、締結時は不安等を尋ね、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員会メンバーの家族代表の方がよく意見を下さる。その都度ミーティングにて話し合い、対応を行っている。また、面会時にも居室へ行き、家族の意見を聞くようにしている。	運営推進会議等を通して意見をもらい、出された意見・要望をミーティングで話し合うなど、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや全体会にて意見をだし、意見を頂いた時には園長に相談し、反映して頂く。	職員間のコミュニケーションを大切にし、常に意見を出しやすい環境づくりに努めている。また、出た意見については早急に対応し、必要があれば園長に相談するなど、臨機応変な対応を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、職務内容、資格、経験、技能、勤務成績等を考慮し、向上心を持って勤務できるよう定めている。また、年に1度職員間の融和を目的に、職員旅行を行っている(施設から一部助成)。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修・各種団体主催の研修に参加させている。また、一部資格取得の際には旅費等の支給も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修に参加している。今後、近隣の施設視察も取り入れていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の生活の中で困っている事や要望等を聞き入れ、すぐに出来る事はすぐに行い、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には居室へ出向き、遠方の家族には定期的に電話し、要望等を聞き入れている。また、月に1回通信と担当者からの手紙にて現況報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態をみて他のサービスが必要と判断した場合は、地域包括支援センターに相談を行い対応するが、現在他のサービス利用を必要としている利用者はいない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の居室は自分で掃除していただき、洗濯物たたみや片付けも出来る方は自分でして頂く。また、いろいろな面で介助が必要な方にも出来る事を見つけ出し、出来る事は自分でする事を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には居室にてお茶を飲みながらゆっくりと過ごしていただく。また、外出・外泊の申し出には応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院へ行ったり、自宅周辺にドライブに行き、知り合いの人たちと話をされたりする。また、地区の行事にも参加し、馴染みの方たちと過ごされたりする。	長年利用している美容室に通ったり、地区行事に参加したりと、一人ひとりの要望に合わせて支援している。また、併設施設で毎週行われる「茶のみ場」に全員が参加し、地域との交流が保てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ドライブ時や食事時は相性を見極め、席を決めている。また、仕事を頼んだ時もみんなで助け合って出来るよう席を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	遠方の家族に対しては、何かあったら連絡下さいとの旨を伝えている。また、家族に会った場合にも、近況を教えて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を家族より聞きだし、職員で共有を行っている。また、職員には言えない事等、面会時には聞き取りを行っている。	日々の関係作りを大切にしながら、日頃の会話や態度から利用者の思いや意向を汲み取るよう努めている。また、管理者が家族の来訪時などに、生活歴や職員に直接言えないことを聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎月実施する全体会にて見直しを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時には毎日、日誌・ケア記録をチェックし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がアセスメントをとり、カンファレンス時やミーティングにでた意見、ケアマネが家族・本人から聞きだした意見を反映している。	家族の来訪時を利用し、個別に介護計画についての要望・意見を聞くようにしている。立てた介護計画はミーティング等を通して、全職員がその内容を共有するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録を記入。1ヶ月ごとのモニタリングと全体会にて見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が高齢だったり、遠方にいたり、仕事で休まれない時には相談によって病院受診等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年町や地区の行事には出来るだけ参加し、地区の方との交流を行っている。その中で地区の方の協力を得て安全に参加することが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方の病院に入院されていた方に関しては、入居時に家族と話し合い、納得された上で近隣の病院をかかりつけ医にお願いしている。また、そのほかの方に関しては、今まで通りのかかりつけ医を継続している。	遠方で受診が困難な場合は、本人、家族の承諾の下、協力医に変更している。家族対応が困難な場合には職員が付き添い、日頃の状況や変更を伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護職がいない為、急変時やわからない事等は町立病院の看護師に相談し、指示を仰いでいる。また、受診時にも相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行ったり、家族に入電し、状態を聞いている。また、病院より電話を頂いたり、受診時に看護師に状態を尋ね、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同一法人で特別養護老人ホームの運営もしており、重度化した場合には、その状態に対応できる病院や施設への入院・入所が行えるよう、他施設との連携を図っている。	同法人で複数の特別養護老人ホームを運営しており、状況の変化に応じ、その時点でホームでできる範囲を家族と話し合い、対応できる病院や施設への入院・入所ができるよう連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在、関連施設が主催する感染症対策研修を受講し、感染症についての初期対応は学んでいる。今後、救急救命についても外部講師を招き、行いたいと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する養護老人ホームと合同で訓練を行ったり、単独での訓練も行っている。また、職員には有事の際に慌てないよう、火災発生時での初期対応等について常に念頭に置き、業務にあたるよう指導している。	火災、地震を想定し、全職員参加で月1回の避難訓練等を行っている。また、夜間の災害発生を想定した訓練も行い、災害時は近隣住民の協力も得られるよう、話し合いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは一人ひとりにあった声掛けを行うようにミーティングにて常に話し合っており、お互いに注意し「自分はこうする」といった意見を出し合う。	一人ひとりの人格を尊重しつつ、その利用者にあった声掛けが行えるようミーティングで話し合い、対応している。また、耳の遠い利用者には、別室で対応するなどの配慮も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日には本人が食べたいものをリクエストして頂いている。10時の水分補給時にはメニューより選んで頂き、行きたい所があれば、ドライブにて一緒に行ったりする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	平均年齢が年々上がってきており、毎日のレクリエーションも参加が少なくなってきた為、本人に合わせての生活リズムを見直し、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後には鏡の前で自分で整髪出来るように援助を行う。また、洋服に関しても出来るだけ選んで着てもらうように支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に料理やおやつ作りを行っている。畑の野菜も一緒に植え、収穫を行い、調理を行っている。	利用者と共に、食材の野菜作りから行い、身体機能に応じ、調理の下ごしらえも一緒に行うなど、食への関心を引き起こす工夫がなされている。また、口腔機能に応じ、食事形態も考慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の養護老人ホームの管理栄養士が献立をたて、栄養バランスを確保している。食事時も見守りが必要な方に関しては職員の側に配置し、一緒に食べている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。居室でされ、見守りが不十分な方に関しては、1回/日は職員の目が届く所にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導の必要な方に関しては誘導時間を記入し、共有を行っている。ケアパットに関しても一人ひとりの能力等に応じ、対応を行っている。	排せつパターンや能力を把握し、トイレ誘導やパッドの対応をしている。日中は利用者全員が布パンツで過ごすなど、自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表をチェックし、内服にて調整を行っている。水分摂取や繊維質の多い食物の摂取に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方に関してはゆっくりと本人と話し合い、納得されて介助を行ったり、タイミングをみて誘導を行う。毎日入浴希望者に関しては、相談に応じ入浴を行う。	入浴日は週3回であるが、湯の温度や毎日入浴したいなどの希望や健康状態に応じ、柔軟に対応している。また、入浴を拒む利用者とはゆっくりと話し合い、納得の上で誘導するなど、一人ひとりの状態に応じ対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間・起床時間は本人任せである。また、体調を考慮して日中も居室に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服変更時には必ず2～3日は状態をケア記録に記載し、情報を共有している。24時間表にも記載し、症状の変化には敏感になっている。病院より薬についての表を頂き、全員目を通して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔行っていた事等を行事で行う時には、前もって話を聞き、役割を決めている。趣味がある方に対しては、時間を作り、気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地区や町内の行事には積極的に参加を行っている。出かけるのと知り合いも多く、協力を頂ける。遠方の家族が帰省された時も、希望があれば外出・外泊を行えるように支援している。	園庭や近隣の散歩を日常的に行っている。年数回は町外の地域行事に参加したり、家族との外出・外泊を支援するなど、利用者の要望に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方に関しては、家族了承のもと持って頂き、買い物に行かれた際に払って頂いたりする。また、おやつバイキングの際にはチケットと交換するシステムにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話はかけている。年賀状を担当者と一緒に制作している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日の光がまぶしい時にはカーテンを閉めたり、暗くなれば閉じたり、配慮を行っている。また、季節感を感じられる物を飾ったり、作品の展示を行っている。	きれいに整頓、衛生管理された空間には、季節感のある飾り付けがなされ、所々に利用者の作品を展示するなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ったり、自分の席に座ったり、思い思いの場所にて過ごされている。気の合った方同士で話したり、テレビを見たりもされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しずつ私物の持ち込みが増えてきており、落ち着いた雰囲気になってきている。担当者も写真を飾ったり、カレンダーを工夫したりし、居心地良く暮らせるように対応している。	寝具やたんすなどの持参ができ、自宅という意識を高め、落ち着いて暮らせるよう工夫をしている。また、利用者と話し合いながら、自分らしく居心地良く過ごせるよう、掲示物やカレンダーなどの小物も工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほうきとちり取りを目のつく所に置き、いつでも掃除が出来るようにしている。また、タオル掛けをホールに作り、一目でわかるようにした。		